

水素エンジン+モーター



トラック走行実験へ

室蘭、登別で東京都市大

【室蘭、登別】室蘭（京都市大（旧武蔵工大）工大、室蘭市と連携し）は、二酸化炭素を出さず水素エネルギーの実用化を研究している東

室蘭、登別で走行実験を行う水素ハイブリッドトラック（東京都市大提供）
ハイブリッドトラックの走行実験を15〜24日、室蘭、登別両市内で行う。コープさっぽろ（札幌）の協力で、宅配サービス車として坂道での走行性能などを調べる。

同大によると、公道を使った水素ハイブリッドトラックの実用走行実験は国内初。水素エンジンの出力はディーゼルエンジンの7割ほどでパワー不足が課題だった。同大は出力をディーゼルの9割ほどに向上させるとともに低速時はモーターで駆動するハイブリッド式とした。車体は2トンを改造、4本の水素タンクを装着。1回の燃料補給で約100キロ走行できる。

実験では宅配車が室蘭、登別市内を配達に回り、走行性能や燃費を調べる。東京都市大の伊東明美准教授は「室蘭は寒冷地の上に（パワーが必要な）坂が多く、いいテストコース」と話す。

室工大は、室蘭市内の製鉄や石油精製工場などから副産物として出る水素の活用策を研究しており、室蘭市は新エネルギーを活用した環境産業拠点化を期待している。